

G. bodenbenderianum(和名:怪竜丸)と G. riojense について

2007.4.9

島田 孝

Gymnocalycium bodenbenderianum (*Hosseus ex Berger*) *A.W. Hill*(和名 : 怪竜丸) と広い意味での異名同種とされる Gymnocalycium riojense *Fric ex Pazout* は、18 世紀末から 19 世紀の初頭にかけて、外観が近似した種が混同され、現在も、その影響を引きずり混乱しています。

W.Papsh 氏による G. bodenbenderianum(G.riojense)近縁種の 1930 年までの、学名記載の時系列は、以下のようになっています。(表 1 参照)

表 1 学名記載の時系列

1899	Echinocactus quehlianus <i>F. Haage nom. nud</i> Haage Katalog (1899).
1899	Echinocactus quehlianus <i>F. Haage ex Quehl</i> Monatsschrift für Kakteenkunde 9(3): 43-44 (1899).
1905	Echinocactus stellatus <i>Spegazzini non Scheidweiler nom. illeg. (Art.53.1)</i> Anales del Museo Nacional de Buenos Aires, Ser.3 11(4): 505 (1905).
1925	Gymnocalycium stellatum <i>Spegazzini</i> Anales de la Sociedad Cientifica de Argentina, 99: 62-64 (1925).
1926	Gymnocalycium quehlianus (<i>F. Haage ex Quehl</i>) <i>Vaupel ex Hosseus</i> Revista del Centro Estudiante de Farmacia 2(6): 22 (1926). Basionym: Echinocactus quehlianus <i>F. Haage ex Quehl</i> 1899.
1928	Echinocactus/Gymnocalycium bodenbenderianum <i>Hosseus nom. nud.</i> in Haage, W.: Katalog (1928).
1929	Gymnocalycium bodenbenderianum (<i>Hosseus ex Berger</i>) <i>A.W. Hill</i> Index Kewensis Plantarum Phanerogamarum, Supplement 8: 105 (1933). Basionym: Echinocactus bodenbenderianus <i>Hosseus ex Berger</i> 1929.
1929	Gymnocalycium occultum <i>Fric nom. nud.</i> Kakteenjäger: 8 (1929) als G. occultum.
1929	Gymnocalycium riojense <i>Fric nom. nud.</i> Kakteenjäger: 8 (1929).

W.Papsh 氏のリストより

このリストの中で、混同された品種としては、以下のものが上げられます。

- ① Gymnocalycium quehlianus (*F. Haage ex Quehl*) *Vaupel ex Hosseus* と Gymnocalycium stellatum *Spegazzini*
- ② Gymnocalycium stellatum *Spegazzini*(*Gasterium Y.Ito*) と Gymnocalycium occultum *Fric nom. nud. (Hosseus ex Berger) A.W. Hill*

- ③ *Gymnocalycium occultum* Fric nom. nud. と *Gymnocalycium bodenbenderianum* (*Hosseus ex Berger*) A.W. Hill = *Gymnocalycium riojense* Fric nom. nud
- ④ *Gymnocalycium bodenbenderianum* (*Hosseus ex Berger*) A.W. Hill と *Gymnocalycium riojense* Fric nom. nud. ……これに関しては、広い意味 (*sensu lato*) では、同じ植物と解釈されているものの、オーストリアのギムノ研究グループ (AGG) の H.Till 氏らは日本の怪竜丸に相当する植物を、*G. bodenbenderianum sensu stricto* [厳密な意味での] として、特別に区分しています。

①の *G.stellatum* とその変種が、*G. quehlianum* 及び *G. quehlianum* の変種とされて来た事については、長い論争の結果、オーストリアのギムノ研究グループ (AGG) の H.Till 氏の意見が認められ、本来の *Gymnocalycium quehlianum* (*F. Haage ex Quehl*) *Vaupel ex Hosseus* は、種子グループ (*G.baldianum* と同じ) の異なる *G.robustum* *Kiesling* (*sensu Till*) とされています。H.Till 氏は、*G. quehlianum* と言う名前を維持したかったはずですが、国際植物命名規約 (ICBN) で混乱した名前は新しい学名を採用するとの規定があるらしく、皮肉にも、彼とは反対の立場を取っていた、R.Kiesling 博士が記述した学名になってしまいました。

G.stellatum の和名としては、守殿玉が相当しますが、実際は *G.riojense* の和名として使われています。一方、*G. quehlianum* の和名は、竜頭とされて来ましたが、上記の結果により、*G.stellatum* の和名が竜頭となります。

②の *G.stellatum* と *G.occultum* の混同については、AGG の H.Till 氏の以下の記載があります。
(*G.stellatum* AGG *Gymnocalycium* 1(1) 1988: 1-2)

……“ギムノカリキウム・ステラツム (*G.stellatum*) とは何か?” これを私は良好な例であると思っている。なぜなら、多くは、それどころか不明瞭であるから。どちらの名前 *G.stellatum* *Spegazzini*、あるいは *Gasterium* *Y.Ito* が正しいか。正しいのは *Gymnocalycium stellatum* *Spegazzini* である。……中略…… *Spegazzini* 氏は、後に *Britton & Rose* 両氏により公認されたギムノカリキウム属 (1845 年 *Pfeiffer* 氏により “*Abbildung und Beschreibung bluhenden Cacteen*” の中で公表されていた) として、1925 年に彼の *Echinocactus stellatus* を “*Nuevas Notas Cactologicas*” の 142 ページで、もう一度、しかも完全に正確に *Gymnocalycium stellatum* *Spegazzini* として学術記載した。*Y. Ito* (伊藤) 氏が、この 2 つの *Spegazzini* 氏の学術記載を知っていたかどうかは、私には分らない。彼は、その種を 1952 年 *Gymnocalycium asterium* *Y.Ito* に移動組み替えてしまった。それで 1975 年 *R.Strong* 氏により伊藤氏の過ちは *Nat. Cact. Succ. Journal* 誌の中で訂正された。……

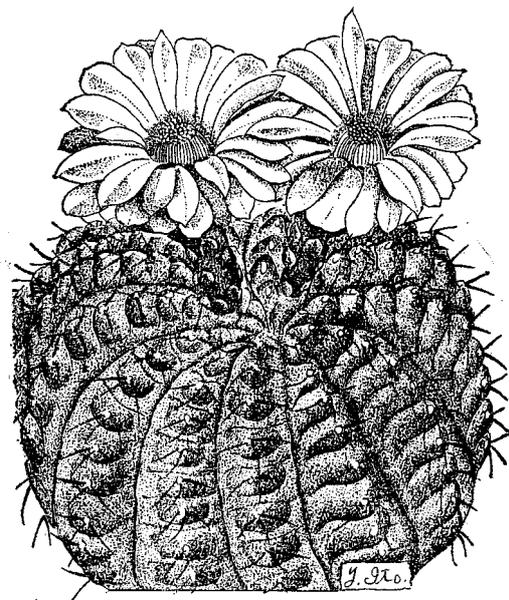


図 1; 伊藤氏による *Gasterium* (鳳頭) *G.occultum* と思われる。

また、H.Till 氏は、*G.stellatum* AGG *Gymnocalycium* 8(4) 1995 163-166 の中でも同じような内

容を繰り返しています。

……*G.stellatum* の悲運の歴史はまだ終わらない。それ以前に、それは伊藤氏により 1957 年 *Gymnocalycium asterium Y.Ito* に改名された。この名前は 1959 年 Backeberg 氏により保持され、その種は、彼の全作品の中で 2 つの図版をつけて紹介されている。最もそれは *Gymnocalycium occultum Fric ex Schutz* である。*G.stellatum* の正しい図は *G.quehlianum* の近くで見つけることが出来る。(Till 氏 1993 年) ……

伊藤氏も彼のサボテン図説の中で、*Gymnocalycium asterium Y. Ito 1952 (Echinocactus stellatus Speg. 1905 (Gymnocalycium Occultum Fric, nom. nud. 1929?))*(和名：鳳頭)と書いているので、伊藤氏も認識していたように思われます。伊藤氏は *G.stellatum* と *G.occultum* を同じと見ており、*G.quehlianum Berg.* は、和名：竜頭として記述していますので、鳳頭は、現在の学名では、*G.stellatum Speg. subsp. occultum Fric ex Till & W.Till = Gymnocalycium occultum Fric ex Schutz* と言うことになります。(図 1 参照)

②の *G.stellatum* と *G.occultum*、③の *G.bodenbenderianum*(*G.riojense*)と *G.occultum* の混同に関して、Backeberg 氏が、*Die Cactaceae Band III 1959* の *G.bodenbenderianum* に関する記載の中に以下の文章があります。

……Fric 氏は、二種の裸名(*nomina nuda*)、つまり *G.occultum*、そして *G.riojense* に付いて述べている。後の *G.riojense* は、その名前の由来から、明らかに *G.bodenbenderianum* であり、前者の *G.occultum* は、おそらく *Gasterium* であろう。即ち、彼はどこかで、*Gasterium* と言う名前を使ったことがあると思われる。それに従い、伊藤氏は、*Gasterium (Speg.) Y.Ito* と言う名称を選らんだのだろう。……中略…… *Garterium* と *G.bodenbenderianum* が遠い場所で発見された物で無いとすれば、*G.bodenbenderianum* は、*Gasterium* の変種と記述しなければならなくなる。花の違いだけでは、種類分けするには十分で無いからである。Spegazzini 氏も両者を同一のものを見なしたのである。……中略…… この種類は、全く明らかにされていない。推測でき

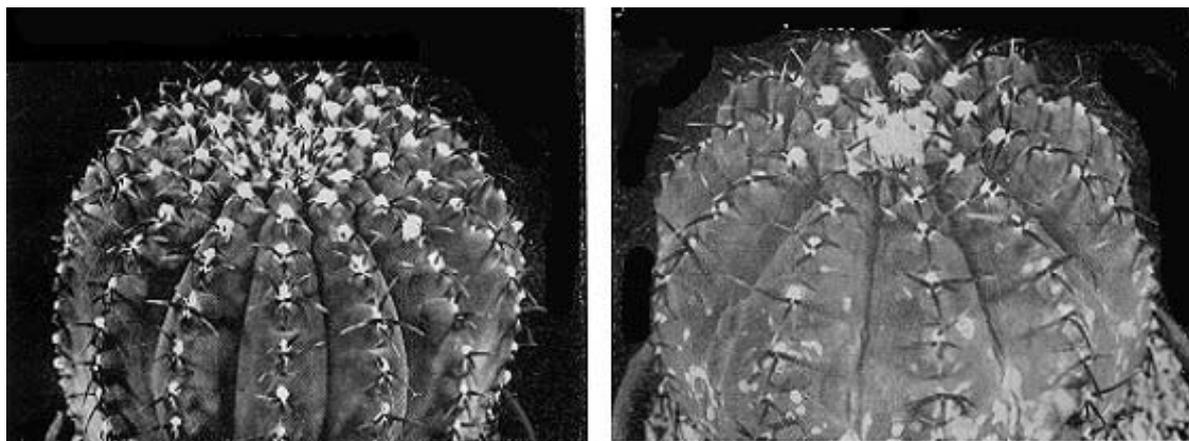


写真 1；津田宗直氏播種による鉄冠 *G.bodenbenderianum*(左)と *G.bodenbenderianum* として輸入された種子からの植物(右) いずれも *G.occultum* と思われる。

写真は庵田知宏氏 サボテン日本 N.42(1964)より

ることは、Spegazzini 氏が述べているように、全体の分布地域によると、彼は、*Gasterium* と *G.bodenbenderianum* を違うものと見做さなかった。……

つまり、古い時代、*Gasterium = G.occultum*(和名：鳳頭)は、*G.bodenbenderianum*(和名：怪竜丸)

と同じ植物と考えられていたと思われます。このことは、サボテン日本 N042. 1964 に庵田知宏氏が記述した、「鉄冠、怪竜丸、雲竜について私の立場から」の内容を説明できるように思います。庵田氏は、その中で、古い時代に *G.bodenbenderianum* として輸入され、「鉄冠」と命名されたものと、1960 年代に輸入球や種子が入った、*G.bodenbenderianum*(和名：怪竜丸=快竜丸 B 型)について記述していますが、私見になりますが、「鉄冠」= *Gasterium*= *Goccultum*(和名：鳳頭)と読み替えれば、庵田氏の記述内容は、説明が簡単です。事実、彼が、「鉄冠」としている写真は *Goccultum* のように思えます。

一方、伊藤芳夫氏は、サボテン図説の中で *G.bodenbenderianum*(和名：快竜丸、鉄冠、黒蝶玉)として、*Gasterium*(和名：鳳頭)と混同されるが、より扁平になるとしていますが、その挿絵は、広い意味での *G.bodenbenderianum*=*G.riojense* のように見えます。(図 2 参照)

④については、AGG の H.Till 氏が *G.bodenbenderianum sensu stricto*(和名：怪竜丸=快竜丸 B 型)としている種を、特別に *G.riojense* と区分している理由は、産地がアルゼンチン、ラ・リオハ州の南部、Sierra de Abajo と Sierra de Ulapes 間の低地に限定していること、花卉が花筒よりも短い花の為としています。さらに AGG は、逆に *G.intertextum*、*Gochoterenai v. cirenium* を *G.bodenbenderianum sensu stricto* に近い種であるとしています。

H.Till 氏らは、*G.bodenbenderianum sensu stricto* と *G.riojense* との差を次のように書いています。(*G.bodenbenderianum* AGG *Gymnocalycium* 3(5) 1992 67-70)

……ラ・リオハ州の最大部分に定住し、その分布地域は南へは Sierra de Arganz の地域で終わる *Gymnocalycium riojense* *Fric ex Till & W.Till* とは、平坦な胴体、とりわけ低地で産出する個体、反対の色調(基部が暗くて、先端が明るい)、そして、大抵より短く、より柔軟な刺、及び、花卉が花筒よりも短い花により *Gymnocalycium bodenbenderianum (Hosseus ex Berger) Backeberg* は相違している。……(写真 2 参照)

AGG のように、種を細分化する分類に比べて、より広い分類を取る Kiesling 博士は、*G.riojense*

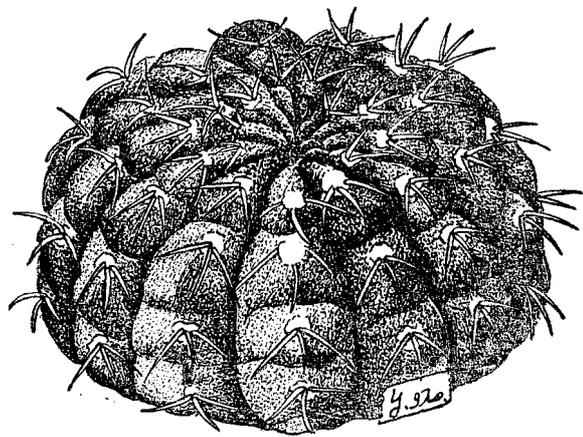


図 2; 伊藤芳夫氏のサボテン図説 1957 の *G.bodenbenderianum*



写真 2; 怪竜丸(快竜丸 B 型) AGG による *G.bodenbenderianum sensu stricto* と思われるタイプ。筆者栽培・撮影。

では無く、広い意味で *G. bodenbenderianum* という学名を適用しています。Pilz 氏の最近のカタログでは、Kiesling 博士を支持するとしています。また、さらに広い分類をとる D.Hunt 博士らも、最近の本 *The New Cactus Lexicon 2006* で、*G. riojense* を、*G. bodenbenderianum* の異名同種 (Synonym) としています。

G. riojense は、1951 年秋、“*Gymnocalycium spec. L. Col.*”の名称の下に、ヨーロッパに輸入され、いろいろな名前で販売されたとの記載が、H.Till 氏と W.Till 博士が記載した AGG の文献に載っています。(G.riojense AGG *Gymnocalycium* 2(4) 1991: 47-50)

……当時、大抵の識者は、“*Gymnocalycium L. Col.*”に *Gymnocalycium asterium Y.Ito.* を認識したと思った。けれども、C.Backeberg 氏は、別の見解を持っていた。彼は Fric 氏の“*G.riojense*”を *Gymnocalycium*

bodenbenderianum (Hosseus ex Berger) Backeberg のあるタイプと思い、それ (*G.riojense*) を *G.bodenbenderianum* と疑いも無く、類縁関係があるとした。それどころか、ドイツのカクタス販売業者 K-H Uhlig 氏は *G.riojense* を一度、Backeberg & Knuth 両氏の本にある *G.hossei (Hosseus jr emend. Berger) Backeberg* として提供した。

Valnicek 博士は、1950 年代にオーストリアの Attersee を訪問時に、輸入植物を見た時、Hans Till に対し、この植物は長い間行方不明の Fric 氏の“*G. riojense*”だと言った。けれども、彼は自分の見解を殆ど一人だけにとどめた。それ以降、“*G.spec. L. Col.*”は、いつも業者によって *G. asterium* として提供され、この名前は広く受け入れられた。植物は上から見ると、*Astrophytum asterium* に似ているので、F.Pazout 氏が、1960 年にこのギムノカリキウムを *G.riojense* として公表した時でさえ、この種の場合 2 重の間違いのままであった。：第一に、Y.Ito 氏によって間違っ *G. stellatum* の変更された名前 *Gasterium* が使われているから、第二にその植物が間違っ同定されているから。……

実際、日本での *Gasterium* は、和名：鳳頭のもものが流通していますが、ヨーロッパやアメリカで *Gasterium* として流通しているのは、



写真 3 ; *G.riojense (G.bodenbenderianum) P76c*
ドイツの Uhlig が *G.stellatum* として販売したもの。 筆者栽培・撮影



写真 4 ; *G.riojense* ヨーロッパで *Gasterium* として販売されているもの。 筆者栽培・撮影

G.riojense のようです。

このように、G.quehlianum と G.stellatum、G.stellatum(=Gasterium)と G.occultum、G.occultum と G.bodenbenderianum(=G.riojense)、G.bodenbenderianum(=G.riojense) と G.bodenbenderianum sensu stricto、さらには G.bodenbenderianum(=G.riojense) と Gochoterenae など、極めて複雑な関係や取り間違いにより混乱しています。

さらに、これを助長させたのが、Backeberg 氏や AGG の Till 氏などの種を細分化する分類に対し、D.Hunt 氏らの種の数を経る分類、R.Kiesling 博士らによる、その中間的分类など、種の



写真 5 ; G.bodenbenderianum v. P31
Pilz 種子 G.riojense 類縁種と思われる。 谷山幸氏 実生・栽培・撮影



写真 6 ; 新鳳頭 G.stellatum と思われる。
学名の星と言う意味の形が良く出ている。 谷山幸氏 栽培・撮影

区分の仕方です。細分化した分類で、違うとされた種が、より広い分類では、同じ種となる問題が常に発生します。

D.Metzing 博士らは、趣味家や、業者は膨大な名前を製造し、分類学を混乱させていると、苦言を述べていますが、趣味家は分類学者ではありませんし、D.Hunt 博士まで種を絞り込むと、興味が薄れてしまいます。しかし、サボテンの分類体系全体を見る分類学者から見れば、わずかな種の変化について語る、趣味家は、理解出来ないのかも知れません。Pilz 氏や D.Metzing 氏は AGG のメンバーでもありますが、どちらかと言うと R.Kiesling 博士の考え方に近い人です。

分類に関する、種の区分の考え方の違いと G.quehlianum と G.stellatum に代表される種のとりの違いは、さらに混乱を拡大させました。販売業者は H.Till 氏、R.Kiesling 博士らの専門化がつけた名前をそのまま販売します。たとえば、R.kiesling 博士は G.bodenbenderianum (*Hosseus ex Berger*) Backeberg は、細分化した分類の Gasterium、G.occultum、Gasterium v. paucispinum、G.quehlianum v. stellatum、G.pilziorum、G.riojense subsp.pilziorum、G.riojense subsp. kozelskyanum、G.riojense subsp. paucispinum、G.triactanthum、G.stellatum、G.stellatum subsp. occultum を異名同種(Synonym)としています。また、G.quehlianum

(*Haage jr. ex Quehl*) *Vaupel ex Hosseus* は、細分化した分類の Gasterium v. minimum、G.quehlianum v. albispinum、G.quehlianum v. flavispinum、G.quehlianum v. rolifianum、G.quehlianum v. zantinerianum、G.stellatum v. flavispinum、G.stellatum v. kleinianum、G.stellatum v. zantinerianum を異名同種(Synonym)としています。

前述したように、R.kiesling 博士らが、主張していた、*G.quehlianum* (*Haage jr. ex Quehl*) *Vaupel ex Hosseus* は間違いで *Gymnocalycium stellatum* *Spegazzini* ということになりますが、R.kiesling 博士が *G.bodenbenderianum* の中に、異名同種(Synonym)としている種は、*G.bodenbenderianum* または、その変種として、販売業者が取り扱った可能性があります。

以上のような理由により、趣味家としての立場から、Backeberg 氏や AGG の Till 氏などの種を細分化する分類を基準として考察すれば、以下のようなことが言えると思います。

① *G.bodenbenderianum* の学名で二つのタイプが輸入された。(写真 1、2 参照)

……怪竜丸と鉄冠 怪竜丸は厳密な意味(*sensu stricto*)での *G. bodenbenderianum* で、学名は *Gymnocalycium bodenbenderianum* (*Hosseus ex Berger*) *Backeberg* であり、鉄冠 については、*Gymnocalycium occultum* *Fric ex Schuet* の可能性が高いと思われる。

② *G.riojense*(=*G.bodenbenderianum*)が *G.stellatum*(和名:守殿玉)として輸入された。(写真 3 参照)

……守殿玉は、本来、*Gymnocalycium stellatum* に与えられた名前であるが、日本で流通しているのは、*G.riojense* である。

③ *G.riojense*(=*G.bodenbenderianum*)が、ヨーロッパやアメリカで *G.asterium* とされている。(写真 4 参照)

……日本にも同じ名前で輸入され、鳳頭の名前で販売されている。

④ 竜頭(*G.stellatum* と *G.quehlianum*)の学名の混同。(写真 6 参照)

……*Gymnocalycium stellatum* (*sensu* Till)が、昔の学名である *G.asterium* (和名：鳳頭)として輸入された。新鳳頭、ドイツ鳳頭は、*G.stellatum* である。

⑤ *G.riojense*.類縁種(=*G.bodenbenderianum*)や *G.occultum* が、*G.bodenbenderianum* という名前で輸入され、怪竜丸とされた。(写真 7 参照)

……ドイツ怪竜丸とされたものが該当するが、厳密な種の特定は難しい。

⑥ *G.riojense*(=*G.bodenbenderianum*)が、間違っ て *G.ochoterenae*(和名：武勲丸)として輸入された。(写真 8 参照)

……武勲丸は、本来 *G.ochoterenae* に与えられた和名である。しかし、日本で流通している



写真 7 ; ドイツ怪竜丸と言われる一つのタイプ 谷山宰氏 栽培・撮影



写真 8 ; *G.riojense* アメリカの Dodie から *G.ochoterenae* として輸入されたもの 筆者栽培・撮影

ものは、*G. riojense* の一つのタイプの和名として、使われている場合、或いは、そうとも言えない場合もあり、種の特定は今後の課題である。(写真 9,10 参照)

Gochoterenae については、非常に変異が大きい種類とされています。Backeberg 氏が *Cactus Lexicon* で記載した多くの変種は適切ではない、との AGG の見解があり、別途、*G. ochoterenae*



写真 9; 武勲丸 現在、*Gochoterenae* とされているものと違う。 谷山幸氏 栽培・撮影

類縁種については、分析が必要であると思います。

伊藤芳夫氏が、サボテン図説の中で記載している *G. ochoterenae* は、現在、*Gochoterenae* の一般的な記述や Backeberg 氏が *Die Cactaceae Band III* や *Cactus Lexicon* で記載した内容とも異なり、*G. riojense* 類縁種か *Gymnocalycium occultum* の一つのタイプのような記載内容です。



写真 10; *Gochoterenae Uhlig* 種子 山田藤次郎氏実生 *Gochoterenae* か *G. riojense* かどうかは不明。 筆者栽培・撮影

1990 年以降、*G. riojense* 類縁種については、AGG の Till 親子らによる、系統的で精力的な原産地調査により、その全貌が明らかにされています。AGG の分類は種を細かく分類するので、コレクター向きですが、大きな分類をとる D.Hunt 博士、中間的な分類をする R.Kiesling 博士の分類とは、幾分、違ってくるのは、やむを得ません。しかし、最近では、採取した原産地における Field 番号が記述されていますので、分類の考え方が、人により違っていても、また、変更になっても、種を特定することが可能となります。種が同じでも、Field 番号が違う植物を無闇に交配することは、趣味家にとっても混乱を招き、良い結果にはならないと思います。

終わりに、ギムノ愛好家で、多くのギムノカリキウム種の写真を取られ、種を比較・研究されている谷山幸氏の写真を使わせて頂きましたことに感謝します。

参考文献

伊藤芳夫(Y.Ito) サボテン図説 Explanatory Diagram of Austroechinocactinae 1957

- Curt Backeberg Die Cactaceae BandIII 1959
- 庵田知宏「鉄冠、怪竜丸、雲竜について私の立場から」サボテン日本 N042 1964
- Curt Backeberg Cactus Lexicon 1976
- H.Till (AGG) *Gymnocalycium stellatum* *Gymnocalycium* 1(1) 1988: 1-2
- H.Till & W.Till(AGG) *Gymnocalycium riojense* *Gymnocalycium* 2(4) 1991: 47-50
- H.Till(AGG) *Gymnocalycium bodenbenderianum* *Gymnocalycium* 3(5) 1992 67-70
- H.Till & G.Neuhuber(AGG) *Gymnocalycium bodenbenderianum* Aggregates
Gymnocalycium 4(5) 1992 71-76
- H.Till(AGG) *Gymnocalycium stellatum* *Gymnocalycium* 8(4) 1995 163-166
- John Pilbeam *Gymnocalycium* A Collocrot's Guide 1995
- R.Kiesling Cat. de las Plantas Vasculares de la Republica Argentina 1999
- Wolfgang Papsch *Gymnocalycium* Check List 2000
- David Hunt, Nigel Taylor ,Graham Charles The New Cactus Lexicon 2006